

「商店街をどうしようてんがい」

～「七夕まつり」 張りぼて参加報告～

名古屋市立大学、人文社会学部、現代社会学科 安井

私は、以前からこのホームページでも紹介されている商店街調査グループのメンバーの1人である。大学の講義としての調査は今年3月の報告書完成をもって終了したのだが、1年間調査をさせていただいた円頓寺に少しでも恩返しをするために、引き続き様々な活動を続けてきた。その集大成とも言えるのが、今回紹介する「七夕まつり」への「張りぼて」出展プロジェクトである。

「七夕まつり」とは円頓寺の伝統行事であり、今年で48回目（7月30日から5日間にわたって開催）を迎える。このまつりの最大の特徴はアーケードを華やかに彩る「張りぼて」たちである。これらは、商店街の人々をはじめ、子ども会など地域の人々の「手作り」であり、毎年、趣向を凝らした素晴らしい作品が出揃う。昨年、私も見物させてもらったが、2～3メートルもある巨大な「主役たち」がアーケード一面に飾られる様子に圧倒された。我々も他の作品に見劣りしないものを仕上げるべく制作を開始した。

まず、はじめに行ったのは「張りぼて」のモデル選びである。例年、子どもたちにも喜ばれるアニメのキャラクターを作る人が多い。我がグループも、万人受けする愛くるしい点、比較的制作が容易である点などを考慮して「ゴン太くん」を出展することに決定した。（「ゴン太くん」とは、かつてNHK教育で放映されていた工作番組に出演していたキャラクターである。）

「張りぼて」の素材に特に制約はないのだが、竹を使って骨組みを作り、その上から紙を貼り付け、彩色をするというのが一般的な方法である。電動ドライバー、のこぎり、ペンキなど、慣れない工具や材料に悪戦苦闘しながらも、商店街の方々のバックアップの下、何とか完成までこぎつけることができた。私を含め、メンバー全員が「汗と涙の結晶」である2体の「ゴン太くん」の出来栄えに大満足である。（デザイン・衣装の異なる2パターンを制作した。）

今回、「張りぼて」制作のため6月の下旬から毎週末、円頓寺に「通った」が、そこで最も強く感じたことがあった。それは我々がいつの間にか忘れてしまっていた、人々の「あたたかさ」である。我々の慣れない手つきを見て何度もアドバイスをしてくれた人。炎天下のなかで作業をしている途中、冷たいスイカを差し入れしてくれた人。そして、全面的に実践指導をして頂いた浅見さん。他にも数え切れないほどの多くの人々に励まされ、支えられてきた。商店街の「一員」となることで、昨年1年間の調査では得ることができなかった「新たな良さ」を発見することができた。

今年の夏、円頓寺のアーケードの下で過ごした「熱い」時間を、これから先も決して忘れることはないだろう。それほど私にとって貴重な体験であった。さあ、もうすぐ「七夕まつり」の季節がやってくる。みなさんも一度足を運んでみてはいかがだろう。

Date: Sat, 19 Jul 2003